

普遍的指令主義

- 倫理学の主流の一つ。
- 道德判断は普遍化可能な命令。同じ状況すべてにあてはまる命令。
- ただし、似たことがらについては同じように判断しなければならない。



R. M. ヘア

道徳に関する発言は むしろ命令

- 命令・勧告・勧奨・禁止・非難：行動を指令・指図する
- 「ここではタバコを吸うべきでない」→ ここでタバコ吸うな！
- 「浮気は悪い」→ 浮気するな！浮気しない方がいい、浮気する奴は悪いやつだ、浮気したら別れる！浮気するなんてなんてことをするのだ！
- 「バスで年寄りに席を譲るのはよいことだ」→ 「年寄りに席をゆずった方がよい、譲れ」

ただし、普遍化可能な 命令

- 「普遍的」 = ぜんぶ
- 普遍化可能 = ぜんぶにあてはまる
- 「太郎はタバコを吸うべきではない」
→ 太郎と同じような人はみんなタバコ
を吸うべきではない

- → 私も(太郎と同じ立場におかれたら)
タバコを吸うべきではない
- 「喫煙場所以外ではタバコを吸うべきでない」と言いながら、タバコ吸っていたらその人はなにか矛盾したことをおこなっている。偽善者？

スカーレットに戻ると

- 「スカーレットが浮気するのは悪い」
「浮気するべきではない」
- = （特別な条件がなければ） 誰が浮気
をしても悪い

- スカーレットは浮気すべきではない
- → スカーレットと同じ立場の人は浮気すべきではない
- → 私が浮気してよいなら(大きな違いがなければ)スカーレットも浮気してよい。
- → スカーレットが浮気してよいなら、(大きな違いがなければ)スカーレットの夫も浮気してよい

「特別な条件がなければ」

- 「もしスカーレットの夫が浮気していたら、スカーレットも浮気してもよい」
- 「子供がいなければ浮気してもよい」
- 「夫が海外出張で1年間会っていないなら浮気してもしょうがない」

- なにが「特別な条件」「大きな違い」になるか？ →話し手の判断に依存
- この意味で、道德判断はあるていど主観的
- 「なぜそれが大きな違いなの？」という質問に答えられなければならない
- また、その判断には誰もがあてはまることを認めねばならない

自分を 特別あつかいにしない

- 「自分だけは特別」は無理
- なぜ自分が特別な状況なのか説明する必要がある。そしてやはり、その特別な状況におかれた人は「みんな」同じことをするべき／してよいことを認める必要がある

カント主義

- 道徳の基本は、自分の行動方針にみんなが従うことを望むことができるように行為すること。
- × 「都合の悪いときは約束を破る」 → みんなが従うならそもそも約束が成立しない → 約束は守るべき
- × 「人が困っていても見て見ぬふりして助けない」 → 困ってるとき助けてもらわないと死んでしまう → 困っている人は助けるべき

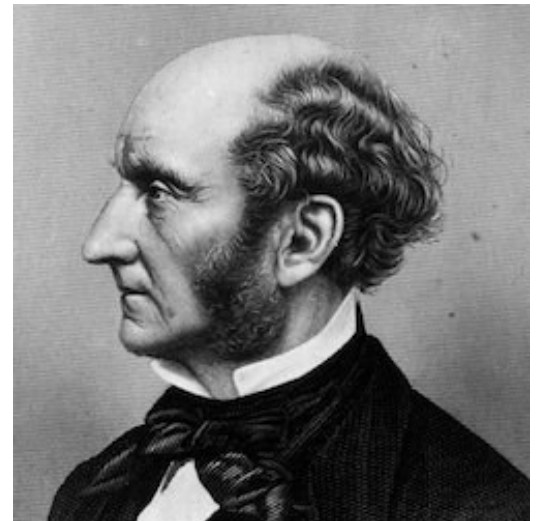


政治哲学者ロールズ

- 社会のルールは、「無知のヴェール」をかぶった状態の人々が合意できるようなものであるべきである
- 無知のヴェール = 自分自身がどういう立場にあるかわからない状態
- お金もちか／貧乏か、男か女か、先進国民か途上国民か……

功利主義にも 結びつくかも

- (1) 道徳的に考えるなら、私を特別あつかいにできない（はず）
 - 「あなたにしてほしいことを他の人にせよ」「あなたにしてほしくないことを他の人にするな」
- (2) 事実として私は幸せになりたい、「私を幸せにしてほしい！」
- (1)+(2) → 「みんなを幸せにしる！」に同意しなければならない。
- → 功利主義 (最大多数の最大幸福)



- 道徳的な判断は、主観的な要素を含む
- しかし、自分勝手な判断ができるわけではなく、同じようなケースでは同じような判断をくださねばならない。判断の対象になる人物によって判断がかわってはおかしい
 - （ツイッターでよく見る「ブーメラン」はそれを指摘している）
- 「反転可能テスト」と呼ばれることがある（日本の法哲学者井上達夫の用語）
- 道徳的な判断は理由にもとづかなければならない

- (1) しかし、上のような議論は理想の話で、実際の人々はもっといいかげんなのではないか？
- (2) そもそも我々は利己的なもので、自分の利益になること、自分が好きだと思うものを求めているだけなのではないか？

感情と理性

「ジュリーとマークは姉弟である。二人は大学の夏休み中にフランスと一緒に旅行していて、ある夜、浜辺に近い小屋に二人だけで泊まる。そしてセックスをしてみたからおもしろいかもしれないということになった。少なくともそれぞれにとって新しい体験になる。ジュリーはすでにピルを服用していたが、マークは念のためコンドームを使った。二人ともセックスを楽しんだが、二度としないことに決めた。その夜の出来事は特別な秘密として守られ、二人はたがいにいっそう親密な感情をもつようになった。あなたはこれをどう思いますか？二人のセックスを承認できますか？」

- ジョナサン・ハイトの心理学実験。上の文章を読ませ、二人のしたことに道徳的問題があるか問う。
- ほとんどの人は即座に二人のしたことは正しくないと断言し、なぜ正しくないのかの理由を探す。
- 近親交配の危険、感情的な問題、コミュニティの反感など。しかしこれらは元の文章では問題がなかったとされている。
- けっきょく「まちがっているのはわかるが、説明はできない」と認める。

「ある女性がクロゼットを整理していると、古いアメリカ国旗がでてきた。もういらなかった
ので、それを小さく切って浴室の掃除に使った。」

「ある飼い犬が、その家の前で車にひかれて死んだ。その家の家族は、犬の肉はおいしいと聞いていたので、犬の体を切り刻んで料理し、夕食に食べた。」

論理より感情が先行する

- 多くの人々は直感的にはっきりした道徳的確信をもち、そのあとで、その確信に理屈をつけて合理化しようとしているらしい。
- けっきょく倫理というのは、当人の感情しだいのものにすぎないのか？

- 自分の好きなことを「よい」「悪い」「ただしい」と述べているだけではないか？
- 我々はどの程度利己的か？